

開講時期 前期・後期	授業科目 現代アメリカ論 A・B U.S. Politics and Social Systems A・B	担当教員 大磯 正美
授業目標 唯一の超大国アメリカのすべてを対象とする地域研究科目。理論ではなくアメリカを丸ごと「体得する」のが目的。したがって授業自体が「考えさせる」アメリカ方式。		
授業概要 いまやアメリカの基準が「グローバル・スタンダード」となった。巨象のようなアメリカを多角的に分析し、客観的に理解することが世界的な課題となっている。本講では、大統領の機能、政府と議会、裁判など実際に進行する出来事が手ごかりに、政治の仕組み、宗教の役割、犯罪と司法、差別と移民社会など、現代アメリカの多様な側面をできるだけそのまま理解することに重点を置く。年度の終わりには「アメリカ人ならこう考えるだろう」というレベルにまで達することができる。		
授業方法 印刷教材よりはるかに情報量の多い映像教材（映画も）を多用する。毎時間クイズ（短問）を課すアメリカ方式を、独自に改良して取り入れている。これによって自分で勉強するコツと、論文の書き方を自然に身につけることができる。 安易な履修登録を防ぐため（文部省も規制に乗り出したほど）、受講態度の特に不良な者は年度内であっても警告、リタイアさせることがある。		
授業展開 初回にレジュメを配布し詳しいガイダンスを行うので、必ず出席すること。平成4年度はロス暴動のテレビ中継からスタートした。同5年度はテキサス州ウェーコのカルト教団炎上、同7年度はそれにオウム事件を重ね合わせる形で、アメリカの宗教、民族、差別などの問題に入っていた。同10年度は、「タイタニック」の"I am King of the world!"の解釈から始まった。同11年度は、高校銃乱射事件のニュース映像から始まった。18年度も楽しみである。 選挙のある年は特に重点的に取り上げるほか、日米間の安全保障問題などが大きな問題となるときは、それに時間を割くことにしている。16・17年度生は「ギャング・オブ・ニューヨーク」が完全に理解できるようになった。		
履修条件 勉強量が多いため大磯担当「国際政治学Ⅱ」を同時履修してはならない。2年次以降に分けてとること。		
評価方法 毎時間のクイズで1年間を通して評価する。後期に留学する場合は前期の単位を預りとする。		
テキスト・参考書 米国憲法は必携。1年次に拙著『「大学」は、ご臨終。』（徳間書店）、『知の技法』（東大出版会）、を必読のこと。 猿谷要『物語アメリカの歴史』（中公新書）ほか、指定図書の本棚にあるもの。		
備考 米国の重要性から見て、学部両学科の学生にとって必要科目とみなされる。国際政治学または政治学関係の予備知識が期待されるので、1年次から計画的に履修すること。 ホームページ http://oiso.net 参照のこと。		